

平成 25 年度第 1 回長野市立図書館協議会開催概要

- 1 日 時 平成 25 年 7 月 22 日 (月) 午後 2 時～ 4 時
- 2 場 所 南部図書館 2 階会議室
- 3 出席者
 - (1) 委 員 8 名 安藤裕子委員、風間悦子委員、倉島志枝委員、小林晃介委員、
小林布美子委員、芝山豊委員、西澤茂委員、森山環委員
(欠席 齊藤京子委員、冨田純子委員)
 - (2) 事務局 10 名 教育次長 藤沢孝司
生涯学習課長 松本孝生、 吉澤良美係長
長野図書館 川島常照館長、常田忠則館長補佐、下村進係長
南部図書館 窪田武館長、長澤久典館長補佐、野田寿一係長、
市川文彦係長
- 4 次 第
 - (1) 開会 (長澤補佐進行)
 - (2) 任命書交付 (机上に配布)
 - (3) 教育次長あいさつ
 - (4) 自己紹介 (委員→事務局)
 - (5) 委員長の選出・職務代理者の指名
 - (6) 委員長あいさつ
 - (7) 協議事項
 - ア平成 24 年度事業報告について (会議資料：平成 25 年度図書館概要)
 - イ平成 25 年度事業計画について (会議資料：平成 25 年度図書館概要)
 - ウ その他
 - (8) その他

5 概 要

{あいさつ}

教育次長：

本日は、お忙しい中、ご出席をいただきありがとうございます。

本日は、平成 25 年 6 月からお願いする新しい委員さんによります、第 1 回目の協議会でございます。何卒よろしくお願ひしたいと存じます。

さて、図書館は、教育と文化の発展のために重要な施設であり、市民の皆さんの生涯学習の場として、また、情報提供の場として、皆様のご要望に応えられる、ご利用いただきやすい図書館を目指して努力しているところでございます。

長野市では、長野・南部の図書館 2 館と、図書館車 3 台により、市内 92 か箇所

を20コースに分けて巡回・貸出しをしております移動図書館、公民館28館に設置しております分室、さらに市内37箇所の福祉施設等に配本する市民文庫と、きめ細かな図書館サービスを実施しております。また、本年12月に現在使用しております図書館システムの更新を行う予定でございます。新システムではできるだけ市民の皆様にとって、よりご利用いただきやすいシステムを目指し、現在作業をしているところでございます。

昨年度の事業成果等につきましては、後ほど担当から報告いたしますが、本年度は特に「第二次長野市こども読書活動推進計画」の初年度にあたる年でもございます。教育委員会といたしましても、小・中学校の耐震化対策等、大変お金のかかる事業を多く抱えているところではございますし、市の財政も大変厳しい中ではございますけれども、「長野市生涯学習推進計画」に沿いまして、読書活動の推進に取り組み、さらなる図書館サービスの充実を目指して、課題解決の方策について今後とも取組んでまいりたいと考えているところでございます。

協議会の委員の皆様方には、これから、平成27年6月まで、2年間の任期でお願いしてまいるわけでございますが、長野市立図書館をより市民の皆様親しみやすく、ご利用いただきやすい図書館とするために、忌憚のないご意見をいただきたいと存じますので、活発なご協議をお願いしたいと思います。

冒頭、一言申し上げましてご挨拶とさせていただきます。本日は大変ご苦勞様です。よろしく願いいたします。

(自己紹介(委員→事務局))

事務局：(欠席委員報告、資料確認、会議成立報告、日程説明等)

(委員長の選出・職務代理者の指名について)

事務局案により、委員長に清泉女学院大学推薦の芝山豊委員を選出。また、委員長職務代理者に長野こども文庫連絡会推薦の森山環委員が指名された。

委員長あいさつ

委員長：

ただいま委員長にご選出いただきました芝山でございます。私は清泉女学院大学の図書館の仕事を5年前までしておりました。その際につくづくむずかしい時代に入ってきたなというふうに思っておりました。

つい先頃もモンゴルで、突厥碑文が見つかったという話がございましたけれども、千数百年を経て残っていくというのは、やはり石に刻んだ文字しかないと思感いたしました。最高のメディアなんだろうと思います。一方で昨日の選挙などでも

分かりますように、情報のデジタル化という波は避けられないところがございます。こうしたことを考えながら、これからの図書館の役割や、それに対する期待というものを踏まえて、長野市の図書館について皆様と一緒に考えていければと思っております。よろしく願いいたします。

事務局：長野市図書館条例第8条によりまして、委員長が会議の議長と定められておりますので、芝山委員長に協議事項の議事進行をお願いいたします。

(協議事項)

議長：それでは次第に沿って進めたいと思います。

最初に、協議事項のアの平成24年度事業報告について事務局の説明をお願いします。

事務局：(会議資料：平成25年度図書館概要により、長野市立図書館全体の概要、続いて長野図書館、南部図書館の順に説明)

主な協議内容(質疑・意見、回答・説明)

議長：まず平成24年度事業報告について、ご意見ご要望がありましたらお願いいたします。

議長：ご意見が出ないようですので、先に平成25年度事業計画についてご説明をいただいてから、ご質問を受けたいと思いますので、事務局説明をお願いいたします。

事務局：(会議資料：平成25年度図書館概要により、長野図書館、南部図書館の順に平成25年度事業計画を説明)

議長：ありがとうございました。それぞれの館よりご説明がございました。それでは、先程の24年度事業報告と併せてご質問等がありましたらお願いいたします。

委員：一点お聞きしたいのですが、新刊本といいますか新しく購入した本、これについて利用者の皆さんにどんな形で周知しておられるのか、その辺について教えていただきたい。

事務局：まずインターネットの新着本のページがございます。広くはそのページを使

ってお知らせしております。新着本は毎週毎週入ってまいりますので、それぞれの図書館に新着本のコーナーがございます。そこに最初に掲載しまして、皆さんにご覧いただいて貸し出すという手順をとっております。

委員:わかりました。ここで話しておきたいのは、新着本のコーナーにあっても、新刊本というのは人気のある本が多いと思います。入ってくるとすぐどなたかが借りていってしまい、そして次から次に予約が入ってしまうという傾向があると思われまます。私の知人でこの図書館をよく利用している年配の方が言うのには、この本を見たいといっても、新刊本が一覧表になっていないものだから、新刊本のコーナーは確かにあるのだけれども、貸し出されてしまうと見たい本が無くなる。もちろん端末で探せば分かるのですが、ある程度の年配の人だと抵抗無くパソコンを操作できるでしょう。

しかし、中には拒絶反応を示す人もあると思います。ですから、例えば今日現在の新刊本はここにありますが、ということを示していただければいかなかなということ意見を意見として申し上げたい。更北の分室ではそういうことをしている。それで、いままで南部図書館を利用してきたのだけれど、なかなか自分の読みたい本が見当たらない。端末を見れば分かるんだらうけれども、年のせいで触ったことも無いので手が出ない。ところが、更北の分室に行けば、何月何日現在の新刊本の案内が出ている。読みたい本があれば、新刊本のコーナーに無ければ窓口で予約すれば良いので、わざわざ更北の分室まで行って借りているという利用者もいます。それで、資料の44ページ(2)に分室の状況が載っていますが、利用者数はあまり変わっていませんけれど、利用冊数の総数は減っているが一般の利用者数は増えている。何か理由があるのかなということと、併せて資料47ページの分室別の利用状況の中で、一番下の表を見ると更北の分室がとび抜けて多いわけですが、今言ったようなことが影響しているのかなと参考にされたらいかがかなと思いました。しかし、そんなことをやっていたらコストが掛かって無理だとか事情があるのなら別ですが、検討されたらいかがかと思えます。

事務局:今のリストにしたらというご意見ですが、市立図書館では、年間両館で3万冊ぐらいの本を購入しております、毎週両館で6百冊ぐらい、多い週ですと千冊ぐらいの本が入ってまいります。それだけのものを掲示しましても、分かりにくいということで、検索機の「あった君」の御案内のところに、新着図書というのがございまして、ジャンル別に出るようになっております。日本の小説とか産業とかいうように、標準分類表に従った御案内が出るようになっております。多少、御年配の方は抵抗があるかと思いますが、慣れてしまえばそん

なに難しい操作ではありません。画面に触っていただくとリストが出てくるようになっております。ひとつのジャンルでも確かに見にくい面がありまして、10冊ぐらいしかひとつの画面に出てきません。多い時ですと100冊以上の冊数が出てきますので見にくいかもしれませんが、掲示というのは冊数的に難しいというのが現状です。従いまして「あった君」をご利用いただくようお願いをしております。

委員：確かにこの資料を拝見すると、更北公民館がダントツに伸びているのが分かります。特に理由とか、特別な運営方法とかがあるんでしょうか。

事務局：更北公民館におきましては、図書室に対して職員の方が非常に熱心に取り組んでおられ、本の展示や新刊本の案内というものも分かりやすく工夫されておられます。2階が図書室になっておりますが、新刊本や話題本のコーナーの設置、それから親子の方にも親しみやすい環境創りをされているなどというのを見てとれます。こうしたことが原因かなと考えております。

委員：そういった良い取り組み事例があるのでしたら、公民館の会議等で話し合っ
て、良いアイデアなどを共有したらいかかかなと思います。

事務局：分室が現在28館ありますが、それぞれ事情がありまして、更北公民館のように、1部屋そっくり図書室として活用している分館もあれば、建物のスペースの関係で、玄関ホールに本を展示している分館もあります。そういった分館の事情により利用率が異なっている状況も御理解いただけたらと思います。こちらといたしましても、良い情報はそれぞれの分館で共有していくよう働きかけていきたいと考えております。

議長：他にご意見、ご質問ありましたらお願いいたします。

委員：今の公民館の図書室に関連したことですが、分室の運営は南部図書館が公民館に依頼しているということでもよろしいでしょうか。図書館の業務を担当する人がそこにいるということだけでなく、図書を置いてもらって、公民館の職員にその業務をお願いしているという状況ですね。それと、開館の事ですが、公民館が開いていないと利用できないわけですね。松代公民館の例ですが、土日が開館していない場合が多く、図書室も利用できない状態です

事務局：公民館分室に関してですが、各公民館にはそれぞれ独自の歴史がございます

て、以前から公民館で所有していた本、地域の著名な方からの寄贈本、それから南部図書館で配本した本の3種類の本が、それぞれ公民館独自の陳列方法によって図書の棚に収納されています。中にはそれらの本が混ざり合っただけという例も少なくありません。こうしたことは、先程も説明がありましたとおり、それぞれの図書館のスペースのことが大きく影響しておりまして、こちらとしても頼みにくい状況もございます。更北公民館のように、ゆとりあるスペースを有効に使って、利用者の方に分かりやすい展示をしているところもあります。こちらとしましても、各公民館の職員の方に図書の管理を依頼しているという関係上、それぞれの実情に合わせていただいているという状況でございます。

議 長：私のほうからひとつお伺いしたいのですが、事業報告の中にありましたように、蔵書スペースのことなど、今後益々大きな問題になってくると思われまして、それから、利用者の世代別の数字等、短期的取り組みだけでなく、中長期的な視野の中で、長野市の図書館の事業をどう取り組みをされようとしているかというご説明をいただければと思います。

事務局：長野図書館、南部図書館もそうですが、大分古くなってきております。長野図書館は昭和60年建築、南部図書館は昭和54年建築でございます。そういう状況の中で使い勝手も非常に悪くなってきている。それと先程も話がありましたが、蔵書スペースが限られておりまして、除籍をしながら新しい本を入れているという状況にあります。そういう中で、先程も説明しましたように、利用者も若干減る傾向、あるいは借りていただく本の冊数も今まで一人当たり4.5冊だったものが24年度は4.3冊になってきております。

今後は本をお貸しするだけでなく、いろいろなイベントを通じて集客を図るというような工夫も必要だろうと考えております。これにつきましては、長野も南部もそうですが、子どもたちを対象にしたイベントはある程度定着し充実もしていると感じておりますし、関わっていただいているボランティアの皆様もベテランになってきております。これからは、成人向けのイベントといったものも考えていかなければならないかなということが一つ、それから平成18年2月に「長野市立図書館分館設置検討委員会」より図書館の分館構想の答申をいただいております。現在、市立図書館は犀川を挟んで1館ずつの2館ですが、どうもこれだけでは、図書館に遠い人には不便なのではないかということで、犀川を挟んで南部に1館、北部に1館の分館が必要というものでございます。しかし、答申はいただきましたが、長野市の財政が厳しいということで、その構想は実現には至っていないという状況でございます。そうこうするうち

に本館である長野も南部も大分古くなってきておりますので、これをどうするかということも、今後考えていかなければならないという状況です。そういう中で、先程からお話の出ている分室をもう少し活用したらどうか、という意見がここ数年来一つの課題として上がってきております。これは全ての分室ということではなく、その中から、利用率等いろいろな要素を検討してピックアップした分室同士を、ネットワークで繋ごうというものです。そうすることによって、分館を設置するまでの、補完的役割を持たせられるのではないかとこの数年来ごさいます、ここ数年図書館側から提案しているものでございます。

しかし、これも予算を要するものであり、現在の事業内容の見直しや、予算の組み替えも考慮しなければならない、あるいは費用対効果も考えなければならないということで厳しい状況にあります。いずれにいたしましても、今後の取り組みということに関しては、この分室を繋ぐネットワーク構想が現在のところの考えでございます。

委員：長野図書館のほうだと思いますが、新規ボランティアの育成とあります。音訳が現在 36 名で、点訳が 13 名とあります。ボランティアの立場として伺いたいのは、募集の方法はどうしておられるのかということです。市の「広報ながの」などで募集をしておられるのでしょうか。

事務局：昨年の音訳ボランティアさんと、今の点訳ボランティアさんにつきましては、市の「広報ながの」で募集をいたしました。それから、NHKのテレビ、ラジオも活用させていただいて周知をしていただきました。

委員：眼に留まらなかったものですから失礼いたしました。ボランティアをもっとやろうという人達は、私の知っている限りでは、もっと沢山いらっしゃると思います。

事務局：今回、25 名の点訳のボランティアさんが、講座を受講していただいております。応募された方はもっと沢山いらっしゃいましたが、仕事の中身はボランティアというよりも、長野図書館の仕事の協力者という形で、今後も協力していただけますかという意味確認をさせていただいた上で、参加をしていただいております、若干絞らせていただいております。

議長：他にご質問ございませんか。

委員：南部図書館の「赤ちゃんのおはなし会」がとても盛況だという話を伺って

うれしく思っているのですが、「おひぎで絵本」の事業とタイアップしているということで、それで利用者が多いというのは、とても明るい見通しではないかと思えます。是非継続していただいて、保護者も本は大切だという意識を持って欲しいし、子どもさんも、小さい頃から本に親しむ習慣を身につけていって欲しいと思えます。第二次子ども読書活動推進計画も立派なものが出来上がっており、これについての、パブリックコメントとも沢山寄せられたと伺っております。やはりこういったことに意識がある方たちは、こうしたことに対して関心を持っておられる。今後においても、いまある分室などを充実していただいて、市民が気軽に立ち寄れる施設にしていって欲しいと思っております。そして、先程ご説明のあった分室のネットワーク化についても、そういった機能を時代が求めているのだと思えますので、早く予算を獲得していただいて実現していただきたいと願っております。

議 長：今の件で南部図書館の方から何かございますか。

事 務 局：励ましのお言葉を戴きありがとうございます。「赤ちゃんのおはなし会」につきましても、49 ページの資料にありますように、手づくりで行っている事業ではございますが、おかげさまで年々参加される方が増えてきておりますので、これは是非定着させていかななくてはならないものと考えております。

議 長：先程、音楽配信の話がありましたが、電子書籍とかタブレットの貸出しとかについて、なにか取り組みとしてのご予定がありますでしょうか。

事 務 局：電子書籍の関係につきましては、実際に取組まれている公共図書館はそんなにごりません。全国で10数館に留まっております。といいますのはコンテンツといいますか、そちらの方が、図書館で扱えるもの自体がまださほどございせんので、もう少し様子を見ているという状況でございます。それから、デジタル化という面につきましては、長野市立図書館は大変遅れておりまして、無料で利用できるインターネットですね、そちらの整備も進んでおりません。そういう状況ですので、電子図書をタブレットに乗せて貸し出すとか、管内でインターネット用の端末を貸し出すとかいうことにつきましては、今回のシステム更新の際に、持ち込んでいただいたパソコンを、ネットに繋ぐ環境が創れるか否かというところに留まっている状況でございます。今後の課題としまして、そういったことも進めていかななくてはならないということは承知しておりますので、検討は進めているという状況でございます。

議 長：それでは、事務局の方からその他で何か連絡事項ございますか。

事務局：皆様方のお手元に「第二次長野市こども読書活動推進計画」を配布させていただいてあります。この中で、只今色々ご意見をいただいた関係、例えば 31 ページをお開きいただきますと、数値目標というものを掲げてございます。上から 6 番目ですね、市立図書館「おはなし会」参加者数というものも数値目標ということで、毎年管理をしていきたいと思っております。一番上の「おひぎで絵本」事業での絵本配布率が、平成 23 年度現状値で 89.9 パーセントのものを、年々上げていって 96 パーセントまでもってゆければ、というような目標をたてているところでございます。それから、この内容の中で具体的な取り組みということで、キャラクターの募集というものを掲げてございます。これにつきましては、夏休み中に学校等に呼びかけをして、募集をかけてゆく予定でございます。親しみのもてるキャラクターが出来ればありがたいと思っておりますので、委員の皆様何かご指導戴けることがありましたら、よろしく願いしたいと思います。以上でございます。

議 長：よろしいでしょうか。今の件で何かご質問等ございますか。

それでは、その他という事でなにかございますか。この協議会の回数はそれほど多くないと思っておりますので、まだ少し時間がありますので、この際こういうこともと、というようなことも自由にご発言戴ければと思います。

委 員：学校の立場から、一言発言させていただきます。

図書館教育の充実ということで、本校は今年図書館教育を研究しているわけです。その中で、研究指定などを頂戴すると、最新の図書館教育の情報などがわりと手に入りやすいということがあって、逆に言うと、そういったことを意識しないと、図書館教育の新しい流れというようなものが、なかなか入ってきにくいかなということ逆説的な言い方ですがしております。それで、図書館教育のネットワークの中心として、情報提供していただくと学校のほうでは助かると思えます。それから、今まで私は他の郡市にいたとき、例えば千曲市ですと、長野市で運用している連絡便、メール便と言うのですかね、同じようなものがあって、その連絡便の中にブックサービスというのがありまして、市立学校と市内の図書館のネットワークで、ある小学校で本を探していて、自分のところの図書館に無いが他の学校の図書館にあるという場合や、調べ学習があって、理科の学習の単元に必要な本を募集しますということをする、市内の各所の図書館から本を集めることが可能になっている。それから、先程岡谷市が図書館の利用率が高いという話がありました。思い出したのですが、岡谷市の場合、学校の図書館の事務

の先生が頻繁に市立図書館に通っていました。なんだろうと思っていましたら、結局、学校の図書館の蔵書で足りない分を市立図書館に依存していた部分が非常に多かった。学校でいうと図書館総会るとき、よみがたりの本田先生のお話を聞いて、いくつかの話の同じ本を30数冊持っているということでしたが、ひとつの話について、学級児童数分持っているということは、図書館教育の上で大事なことであったということでした。しかし、学校でそういうことは実現が厳しい。優良図書について学級分購入すると、年間の図書費がいくらあっても足りない。そういった学校図書では不可能に近いような部分を、そういうサービスを市立図書館に頼めないかということを感じました。今、学校図書館の検索システムがあるのですが、それと市立図書館の検索サービスの接続はされていない。もし、これが接続されていると、子どもたちが、この本が読みたいんだけど自分の学校には無いけど、長野図書館あるいは南部図書館に行けばあるということを知ると、子どもたちの市立図書館への関心が高まるのではないかと感じました。これは素人考えで、そうしたシステムを構築するには大変費用が掛かるのではないかと思います。もし、そういったことが出来れば、学校図書館と市立図書館の連携がより深まるのではということを感じました。

議 長：今の発言について何かコメントございますか。

事 務 局：昨年「第二次長野市こども読書活動推進計画」を策定いたしまして、教育長が学校図書館の図書環境につきましても、是非充実していきたいという思いを持っておりまして、学校の中の図書館は学校教育課の管轄になりますが、現在、図書標準自体も全てが100パーセントには到達していない状態です。これを一刻も早く上げるということと共に、学校図書館担当職員と市立図書館の職員の連携についても、具体的に考えていきたいと考えております。それから、学校の中でも図書館担当職員に対しての理解が充分ない状況が、学校によってはあるふうにお聞きしておりますので、そういった面での研修会等も予定しております。いずれにしましても、ご指摘されたことを踏まえながら、取組んでまいりたいと思いますのでよろしく願いいたします。

事 務 局：学校図書館への市立図書館の支援という面でいいますと、主には団体貸出しという形で、学校でご利用いただく図書については貸出しをしております。ただ、千曲市と違いまして、長野市は学校の数が小中学校合わせて私立も含めて80校超えております。これを全て網羅する配送システムといいますと、ライトバン一台ではとても足りない量になってしまいます。これは新たに配送システムを創らないと出来ないことですので、今のところは学校で本を取りに来て頂くという方法

でやっております、一校について 100 冊を一ヶ月ということをご利用いただいております。学校によりまして利用にかなり差はありますが、こういう制度がありますということで周知はしておりますので、熱心な学校はご利用いただいている状況です。

事務局：学校図書館と市立図書館を繋ぐというお話がありましたが、現時点では経費の問題で困難かなと思います。それと検索の関係ですが、その本が図書館にあるかどうかということは、図書館のホームページで蔵書検索ができます。これはインターネットからですが確認をしていただければと思います。それと、登録していただくインターネット予約も出来ますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。ただし、子どもさんの登録は出来ませんので、大人の方にお願ひしてください。

議長：そのほか、まだ発言されていない委員さんいかがですか。まだ時間がありますのでいかがですか。事務局のほうで何かありますか。ないようでしたらここで閉会したいと思います。進行に御協利いただきありがとうございます。議長の座を降ろさせていただきます。

事務局：ご熱心にご協利をいただきまして、ありがとうございます。皆様からいただきましたご意見、ご要望は今後の事業運営に反映してまいりたいと思ひます。

次回の協利会については、市立長野図書館を会場に来年 2 月頃を予定いたしておりますので、お含み願ひます。なお、この日程につきましては、年内に調整し、ご連絡をしたいと思ひますのでよろしくお願ひいたします。

それでは以上をもちまして、平成 25 年度第 1 回長野市立図書館協利会を閉会とさせていただきます。本日は誠にありがとうございます。